

2021 年度 帝京ライフロングアカデミー 講座概要

No.	講 座
2101	<p>「教養」とは何か ～ゲーテとシラーを手がかりに「教養」の持つ意義について考える～</p> <p>日時：9月7日（火）10：00～11：00 講師：大田 浩司（外国語学部外国語学科 准教授）</p> <p>概要：「教養」という言葉は大正時代にドイツ語の Bildung の訳語として日本に輸入されました。ドイツ語の Bildung は「人間形成」に関わり、「人間の持つあらゆる能力を全体的・調和的に作りあげていくこと」という意味を持っています。しかし日本語で「教養」という言葉は、今日では単に「幅広い知識をたくさん持っている」という意味で解されることが多いようです。本講座では、まず「教養」（Bildung）の語源を古代ローマの哲学者キケロ（前 106-43）の「魂の耕作」や聖書の「神の似姿としての人間」に探り、その考え方が中世ヨーロッパの大学で「リベラルアーツ」としてどのように定着していったかを辿ります。それから 18 世紀ドイツでゲーテ（1749-1832）やシラー（1759-1805）といった文学者が教養についての考え方をどのように展開させたかを追い、「教養」の持つ意義について皆さんと共に考えたいと思います。</p>
2102	<p>幼帝の即位式 ～子どもらしさと威厳のはざま～</p> <p>日時：9月7日（火）14：00～15：00 講師：保田 那々子（文学部日本文化学科 助教）</p> <p>概要：未成人の天皇である幼帝が初めて現れるのは平安時代のことです。平安中期までの幼帝は現在の小学生程度の年齢ですが、平安後期には乳幼児の幼帝が多数現れます。彼らの子どもらしさと天皇としての威厳は、どのようにして折り合いをつけたのでしょうか。彼らが初めて天皇として公の場に現れる即位式を例に、子どもゆえのトラブルやその解決に奔走する摂政の姿を、当時の史料を交えながら紹介します。また現代とは異なる平安時代の即位式での装いについても取り上げます。</p>
2103	<p>仙台藩士たちの戊辰戦争と西南戦争</p> <p>日時：9月8日（水）10：00～11：00 講師：山下 須美礼（文学部史学科 准教授）</p> <p>概要：戊辰戦争時、東北の大藩であった仙台藩は、新政府勢力に対抗する奥羽越列藩同盟の主軸となり、その結果敗北を喫したことはよく知られていることかと思えます。しかしその仙台藩は、明治時代に入って薩摩の西郷隆盛を中心に九州で引き起こされた西南戦争とも、実は少なからぬ関わりがありました。それはどういった関わりだったのでしょうか。戊辰戦争時に鴉（からす）組と恐れられたゲリラ部隊を編成したとされる仙台藩士細谷十太夫直英という人物を中心に、西南戦争における旧仙台藩関係者の征討軍への参加やその後の宮城集治監（監獄）の建設などを通して、戊辰で敗北した仙台藩の視点から、幕末・明治初期の一側面を検討したいと思います。</p>
2104	<p>ライフイベントとワークライフバランスの変化</p> <p>日時：9月8日（水）14：00～15：00 講師：湯川 志保（経済学部経済学科 准教授）</p> <p>概要：日本でも女性の高学歴化および社会進出が進んでおり、共働き世帯も増加傾向にあります。では、このような女性の働き方の変化の中で、結婚・出産や介護といったライフイベントは夫婦の行動にどのような影響を与えるのでしょうか。本講座では、このようなテーマに関して国内外のデータを用いた最新の研究を紹介します。例えば、「結婚・出産は夫の働き方をどう変える？」や「所得の高い女性は親の介護を自分でするそれともヘルパーを頼む？」というような身近なテーマをあげつつ、経済学的な観点からライフイベントとワークライフバランスの変化について皆さんと考察していきます。</p>

2105	<p>茶道のイロハ ～作法を知って生活を豊かにしよう～</p> <p>日時：9月14日（火）10：00～11：00 講師：鬼頭 誠（法学部政治学科 教授）</p> <p>概要：イ 戦に明け暮れた武将たちが茶道を好んだわけを考えます ロ 論より証拠、抹茶は苦くもなければ足もしびれない、その工夫を紹介します ハ 花をいける、歌をよむ、着物を着る、茶をたてる、各ポイントを伝授します</p>
2106	<p>日本における観光の始まりとその背景 ～江戸時代に学ぶ「観光」の現代的意義～</p> <p>日時：9月14日（火）14：00～15：00 講師：小笠原 永隆（経済学部観光経営学科 教授）</p> <p>概要：日本における「旅」は、ながらく「公務」「戦争」「求道」など、楽しみとは程遠いものでした。それが江戸時代中期頃から、一般庶民の娯楽的要素の強いもの、すなわち「観光」に変質していきます。なぜ、それまでは「観光」がなく、この頃になって「観光」が成立するのでしょうか。それは単に、道路や宿泊・休憩施設など、いわゆるインフラ整備といったことだけではなく、政治や経済、人々の暮らしぶりの変化など様々な要因が加わります。こうした「背景」を探ることで、現代社会における「観光」の重要性も見えてきます。コロナ禍の今だからこそ、観光の意義について改めて考えてみたいと思います。</p>
2107	<p>SDGs 活動って何だろう？ ～様々な取り組みを中心に～</p> <p>日時：9月15日（水）10：00～11：00 講師：永井 リサ（経済学部経済学科 講師）</p> <p>概要：最近メディアでよく目にする SDGs（エスディーゼズ）とは、2015年9月の国連サミットで採択された17の目標である Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2030年までに到達すべき国際社会共通の目標とされています。この講座では、企業・官公庁・教育機関・個人など、どこでも実践を求められている SDGs の概要について説明した後、各企業や団体でどのような SDGs の活動や実践が行われているのかについて紹介していきます。各分野における SDGs 活動への取り組みを学んだ上で、身近な SDGs 活動や日常生活で取り組める SDGs の実践について考えていきたいと思います。</p>
2108	<p>ネットの炎上・誹謗中傷が起きにくい社会にどうしたら近づけるか ～現代社会の情報構造を中心に～</p> <p>日時：9月15日（水）14：00～15：00 講師：吉野 ヒロ子（文学部社会学科 准教授）</p> <p>概要：2020年春に起きた木村花さんの自死事件をきっかけに、ネットの誹謗中傷への意識が高まっています。一方、バイトテロなどネットの炎上がしばしば起き、企業の株価が下がるなど社会的な悪影響も出ています。どうしたら、このような状況を変えることができるのでしょうか。今年3月に出版した「炎上する社会」（弘文堂）をベースに、炎上や誹謗中傷に潜む、現代社会の情報構造の問題点を解説させていただきます。</p>